

高齢者問題の日中比較——東京と上海の比較調査研究(2)
「夫婦の一生」の変化——戦前と現代との比較

冷水 豊 (東京都老人総合研究所)
中野英子 (人口問題研究所)

(中野英子記)

第47回日本公衆衛生学会総会

日本公衆衛生学会総会が、札幌において1988年9月20日から22日まで開催された。その規模を演題数でみると、講演が11、シンポジウムが5、口演が470、示説が400とかなり大きなものであった。その中でも特に人口学に関連するものとしては、まず、シンポジウム「公衆衛生における情報の役割」で、古市厚生省統計情報部長から「行政の立場から——統計情報の利用と個人情報の保護——」と題する講演があった。同講演では、(1)情報公開の原則から、情報の扱いと今後の方針 (2)保健所における情報利用の現状と将来展望について統計に関係した法律の改正の要点や、統計データの民間への供給について説明があった。一般口演の中では、30題ほど関係があり、そのうちの主要な題名をあげると、

- ・死亡状況変化に関するいくつかの仮定による日本の将来人口の一推計
- ・零歳平均余命延長における年齢階級別死亡確率改善の寄与——延長速度による比較
- ・マルコフモデルにおける測定誤差を考慮した推移確率の推定
- ・比例ハザードモデルより計算されたハザード比とロジスティックモデルによる相対危険率の比較検討
- ・わが国の2000年の疾病構造
- ・最近のわが国の平均余命の動向について
- ・都道府県別総死亡のコホート分析
- ・生命表の国際比較(1)平均余命の検討
- ・世代生命表と結婚年齢

となる。また、示説では、

- ・メッシュ区分法によるがん死亡の地理疫学
- ・生命表による胃癌死亡状況の分析(1)
- ・複合死因からみた近年の死因構造に関する研究
- ・Contour Maps Approachによる主要死因死亡の解析
- ・中国の出生率・死亡率水準の現状および人口の将来推計

等があげられよう。

これからわかるように、本学会における人口学関連の発表は死亡に関するものと疫学に関わるものが多い。

なお、来年の総会は、10月25日から27日までつくば市において開催される予定である。(大場 保記)

シンポジウム「『人口と環境』を考える」

標記のシンポジウムが、人口問題協議会・家族計画国際協力財団(ジョイセフ)主催、国連人口基金(UNFPA)後援で、昭和63年7月14日(木)午後1時45分から午後5時20分まで東京都千代田区内幸町日本プレスセンターホールにて開催された。大来佐武郎氏の基調講演のあと、長岡昌前NHK解説委員司会のもとで、パネルディスカッション「『人口と環境』を考える」が行われた。パネリストはアルファベット順で石弘之朝日新聞編集委員、黒田俊夫日本大学人口研究所名誉所長、河野稠果人口問題研究所長、橋本道夫元環境庁大気保全局長の4名であった。人口問題研究所長は人口の観点から報告を行った。(河野稠果記)